※令和４年度以降入学生用

学校番号	１００１

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	地理総合（東京書籍）　新高等地図（東京書籍）						
副教材等	地理総合ワークノート（東京書籍）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・まず身の回りや生活文化の多様性や現代世界の地理にかかわる諸問題に関心をもち、それらを理解するために必要な地理的知識や地図・地理統計等の資料を読み解く技能を身につける。
・その多様性や諸問題がなぜそうなるのか、どういう影響が起きるかなど、疑問をもつことから始め、身につけた知識や技能を活用して考察、判断して疑問を解決し、意見表明できる力をつける。
・身につけた力をもとに、現代の日本、世界の構成員のひとりとして、異文化を正しい視点でとらえ、よりよい社会実現のために諸問題を主体的・協働的に考え、実践し解決を探れるようにする。

２　学習の到達目標

・地理的諸課題を正しく理解するために必要な地理的知識や地図・資料活用の技能を養う。
・人間と自然環境のかかわり、生活文化の多様性などを正しく理解できる視点を養う。
・環境問題や紛争問題、人口問題などの身近なくらしや日本、世界で起きているさまざまな地理的課題、地球的課題を、疑問なく受け入れてしまうのではなく、まず疑問を持つことから始め、そのしくみ、原因、影響などを地理的アプローチから課題解決できるよう、個人または他者と協力しながら考え、判断し、意見表明できる力を身につけさせる。
・身につけた力を授業で発揮するだけで終わらせるのではなく、今後もよりよい社会の形成者のひとりとして、例えば異文化理解や環境保全、防災など、日常生活の中で主体的、協働的に実践、応用できるよう自覚を促し、定着を図る。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	地理的用語や日本と世界の位置や地名、地理的事象の意味・特色・相互の結びつき、地形や気候、産業、多様な生活文化を正しく理解し、地図や地理情報システムの読図と応用のスキルが身についている。地理統計や図表、統計地図から必要な情報を適切、効果的に読み取ることができる。	学んだ地理的知識や資料活用力を生かして、現代の地理的諸課題の調査研究にあたっては、多面的、多角的に考察し、判断し、結論を導き出すことができる。 他者と協力し合っての調査研究では効果的な分業や議論、意見調整ができる。 また、調査研究の成果の効果的な説明や意見表明ができる。	これからの地球社会に生きていく人間として、身につけた地理的なもののとらえ方や考え方を、自己の日常生活や身の回りの事象や日本、世界で取り組むべき課題の解決に向けて、主体的、協働的に考え、実践しようとする姿勢が見られる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

４　学習の活動

※令和４年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	地図や地理情報システムでとらえる現代世界	私たちが暮らす世界 地図や地理情報システムの役割 資料から読み取る現代世界	a:緯度経度、地球儀と地図、図法、地図の種類、縮尺や等高線、地図記号などの地形図のルールなど今後の地理学習に必要な知識を理解している。(知識) 地形図や主題図から、日本の領域や世界の人ヤモノの移動等の状況を可視的にとらえたり、地理情報システムや統計資料等を有効に活用して、断面図やグラフ、階級区分図を作成するなどのスキルを身につけている。(技能) b:地形図や主題図や統計資料、また、それらから作成したグラフや階級区分図等から読み取ることができる情報を分析して、地域や日本・世界の現状や推移、課題等を正しく考察できる。(思考・判断) 考察した結果をもとに自分なりの意見表明ができる。(表現) c:身に着けたスキルを使って、領土問題や地域紛争、環境問題等の、現代の地域や日本・世界で起きているさまざまな問題を地理的にとらえることで、現代社会の一員として主体的にその解決の道を探ろうとしている。(主体性)	定期考査 ワークノート 確認テスト	定期考査 ワークノート	コメント欄記入

※令和４年度以降入学生用

	人々の生活文化と多様な地理的環境	生活文化の多様性と国際理解 生活文化と自然環境①地形 生活文化と自然環境②気候 生活文化と産業	a：地形や気候、植生などの自然環境に関する用語理解と、生活の舞台としての地理的影響を理解している。また、農業や工業、商業、情報などの産業に関する用語理解と、地理的立地や特徴を理解している。さらに、言語や宗教、衣食住などの生活文化に関する用語理解と、地理的多様性を理解している。（知識） 地形図からの地形の読図、地形断面図の作図、雨温図やハイサーグラフの読み方が習得できている（技能）、 b：地形や気候、植生などの自然環境を活用することで世界の多様な生活文化や生業・産業が成立し形成されていることを、世界各地の事例研究を通して、地形図や雨温図、各種統計資料等から得られる情報を活用して分析、考察、検証する力を身に着けている（思考・判断） 分析、考察、検証した事例研究の結果を発表できる（表現） c：さらに現状分析だけでなく、世界の人々のよりよい生活文化のあり方や自分自身の異文化理解について、正しい見識をもつことができる。（主体性）	定期考査 ワークノート 確認テスト	定期考査 ワークノート	コメント欄記入

※令和４年度以降入学生用

後期	さまざまな地球的課題と国際協力	地球環境問題 資源･エネルギー問題 人口問題 食料問題 居住･都市問題 民族問題 持続可能な社会の実現をめざして	a:この章で取り上げられている地球的課題の概要把握に必要な用語理解や図表読解の力を、事例学習を通して習得し、それの意味を正確にふまえたうえで自分の言葉として使いこなせる技量をそなえている。（知識・技能） b:「なぜ」という視点を柱に据えて、地球的課題の原因と発生メカニズム、現状と影響、対策について、さまざまなデータや資料から考察する力をつける、 手法としては、班別に環境問題、資源・エネルギー問題、人口問題、食糧問題、居住・都市問題、民族問題の中からテーマ設定させ、研究調査、発表することにより共有化をはかるという生徒の対話的･協働的活動を通じて課題解決する力を身につけている。（思考・判断・表現） c:現在、自分の身の回りや日本、世界で起きている地球的課題について、地球世界を構成している一員としての視点でとらえることができる。そのうえでＳＤＧｓの 17 の項目をもとに、持続可能な社会に向けた解決努力を自分として主体的、能動的にどう行えばよいかを考える姿勢がみられる（主体性）	定期考査 ワークノート 確認テスト	定期考査 ワークノート プレゼン	コメント欄記入

※令和４年度以降入学生用

	持続可能な地域づくりと私たち	日本の自然環境の特色 さまざまな自然災害と防災 生活圏の調査と地域の展望	a: 生活文化と自然環境①地形および②気候の項で学んだ知識をもとに、日本の自然環境(地形、気候)について概観し、その変化に富んだ特徴や狭い国土でありながら多様性があることを、地形図や雨温図、地質図、活断層図、海底地形図、ハザードマップ等を活用して理解を深める。 世界有数の自然災害大国であることの理解のために、地震・津波被害、火山災害、台風・豪雨・洪水被害、都市災害等の原因やメカニズムを解説する。(知識・技能) b:上記の自然災害の中から、実際に起きた震災や土砂災害等を取り上げて、当時の新聞記事やニュース映像等を手掛かりに事例研究と発表をさせ、甚大な被害を生んだ原因は何か、そこからどのような教訓が得られるか等について考えさせ、自然災害を疑似体験するとともに、問題点を討議させ、主体的態度の醸成につなげていく。 生活圏の調査では、学校周辺の地域で想定される自然災害や防災を視点として、立てた仮説をフィールドワークで検証し、その結果を発表し合う。(思考・判断・表現) c:培った防災・減災意識を基礎として、公助には限界があること、自助・共助の強化のために自分に何ができるかを考え、文章化し、地理学習の集大成としての定着を図り、同時に主体的な公民としての資質を養う(主体性)	定期考査 ワークノート 確認テスト	定期考査 フィールドワークのワークシート プレゼン	コメント欄記入 作文

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度